

若者の視点

尚綱大学生によるレポート25

大津町議員との意見交換会を終えて

さる10月7日(木)に、大津町議会広報委員会と尚綱大学現代文化学部2年の学生とで意見交換会を行い、議会だよりの編集などについて有意義な話し合いをしました。その後、教室でいくつかの班に分かれてグループディスカッションを行いました。



(↑意見交換会とグループディスカッションの全体風景)

A班

吉田(文責)
酒井・谷川・椿・橋本・藤井

〈全体の感想〉

・議員の詳しい仕事内容、議員の方々の質疑応答の姿勢から「住民に寄り添おう」という思いが伝わり、議員への偏見を払拭することができた。

・「議会だよりの」は住民にとって議会や議員のことを知るよい機会となるため、「議会だよりの」を伝わりやすく作成することは、重要な高い業務であると感じた。

〈印象に残ったこと〉

・今年1月に行われた大津町議会選挙では、候補者と定員数が同数になったため選挙が行われず、投票率が0%だったこと。

・「議会だよりの」は地域の人々の声を取り入れており、また見やすいように工夫されている。最優秀賞や奨励賞をとったのはうなずける。それでも改善しようとしている姿勢に感心した。

〈意見・提案〉

・学生の投票率を上げるため、大学の一角に投票スペースを設ける。
・議会の傍聴をお知らせするためのポスター等を制作し、そこに二次元QRコードを掲載しオンラインで視聴できるようにする。



B班

有村(文責)
川口・久保田・佐藤・宮本

〈全体の感想〉

・普段接することのできない議員さんとの貴重な意見交換会ができ、有意義な時間を過ごすことができた。

・議員さんが私たちの質問に真摯に答えていただいたおかげで、

〈私たちの声〉

私たちの政治への関心や興味が高まった。
・議員さんは、議員の仕事とは別に、他の仕事と兼業していることがとても意外だった。

・幅広い年齢層の人が多く来るショッピングモールを投票場にする事で、多くの人が気軽に投票でき、投票率を上げることができるとは思いませんでした。

・男性も女性もまわりのサポートや理解が必要だが、女性はそれがさらに困難である。女性がまわりからのサポートや理解を受けることにより自信をもって立候補することが望まれる。様々な経歴や価値観を持つ女性が議員を職業として選択し、力を発揮すれば社会は変わっていくだろう。

C班

宮川(文責)
濱田・宮本・赤峰・西・虎口

〈全体の感想〉

・議員に対するイメージが変わった。
・自分の住んでいる地域、政治にもっと積極的に関わっていきたいと思うようになった。

〈印象に残った議論〉

・女性議員の少なさについて

女性議員の存在は欠かせないと感じるが、現在の議会が男性社会という話を聞き、これからは候補者を増やすためには周りの偏見から改めていく必要があると考えさせられた。

・意見交換会の後、女性議員の枠を固定するのはどうかという意見が出た。

・若い世代の投票率の低下、投票率を上げるためにできることについて

若者に選挙を身近に感じてもらうために、学校で生徒会役員の



投票の際などに役場から投票箱を借りて使うのはどうかという意見が出た。
また、インターネットを使った投票の仕組にすることで、会場への移動の手間が省けるかと思われる。